

## 7. 地域共創センターの活動

### (1) 地域共創センターの役割

令和2年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の4部会での活動を開始した。

#### ① 地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として、社会・地域課題の解決に取り組む。

#### ② 防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

#### ③ 産学連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

#### ④ ブランディング部会

地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みを継続的に推進する。

### (2) 地域連携部会の各種事業

#### ① ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和2年度は39件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

#### ② 「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」各種シンポジウム

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和2年度は「公益教養プログラム FORUM21」を6回開催した。また、学生主体で運営を行った「共創カフェ」を2回開催した。

#### ③ 「学生活動支援学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営事業

学生活動支援のための競争的資金制度については令和2年度はコロナ禍において学外での活動がしづらかったため、2件の助成となったが、学生の自発的な地域貢献活動へ助成することができた。「学情システム」に採択助成金、活動内容、活動実績等に関する情報を掲載し、「ディプロマ・サプリメント」「ポートフォリオ・サマリー」への反映が行われるよう、教務学生課とシステムの連動に関する検討については、今後も検討を継続する。

#### ④ サービスラーニング支援事業

コロナ禍において、学生が必要なスキルを身につけたり SNS で発信したりするために研修会等の学習機会を設けた。学生団体内でのコミュニケーションが活発になるだけでなく、個々のスキルアップにもつながった。

#### ⑤ 地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和2年度は、10社を訪問しインタビュー取材

を実施して記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol. 2」を発行した。本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。

#### ⑥ 受託事業・補助事業

「舟形町住民主体の地域づくり事業（舟形町）」、「地域共創コーディネーター養成プログラム（鶴岡市）」、「ボランティアコーディネーションカ3級検定業務（酒田市社会福祉協議会）」を受託した。また、補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会）」の採択を受けた。

#### ⑦ 学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのFacebook、市報、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信し、積極的な発信を行った。令和2年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ vol. 2」、「Liga 食品ロス削減チーム活動報告書」、「Praxis 活動報告書」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

### (3) 産学連携部会の各種事業

#### ① 共同研究・受託研究の推進

産学連携を目指す研究分野の検討を行い、受託研究・共同研究の推進を図った。結果、下記に示す受託研究3件および、共同研究3件の契約を締結し研究を行った。

なお、笹川平和財団からの受託研究2件は、樋口講師が推進した案件である。

〈受託研究〉3件

- ・ 笹川平和財団からの受託研究（海洋政策）：樋口講師
- ・ 笹川平和財団からの受託研究（海洋白書）：樋口講師
- ・ 山形県建設業協会酒田支部からの受託研究：斉藤准教授

〈共同研究〉3件

- ・ 飛鳥建設株式会社との共同研究：斉藤准教授
- ・ 株式会社荘内日報社との共同研究：門松准教授
- ・ 株式会社丸高との共同研究：三木教授

### (4) ブランディング部会

#### ① 地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みの継続

櫛引地区黒川能の舞をモーションキャプチャ装置でデジタル化し、後世に残す取り組みや羽黒地区松ヶ丘開墾場の歴史的価値をアーカイブ化する取り組みを継続してすすめた。

※ I-1. (3) ③地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みの継続 参照

#### ② 受託事業

「地域 IT 人材等育成事業（酒田市）」を受託し、事業を推進した。

※ I-3. (3) 寄附講座終了後の後継事業の検討 参照

(5) 防災・環境部会

① 自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ 防災

大学周辺地区（宮野浦小学校学区）における防災・減災（水害・地震・津波）のあり方について、学習会、ワークショップ、現地調査を実施した。また、学生による Web 地図を用いた防災マップ作成を行った。

ロ 環境

プロジェクト型応用演習「海洋ごみ問題解決のための行動計画」（呉・樋口）で、学生が「第3次山形県循環型社会推進計画」策定に関して提案を行った。

※ I-1. (3) ②自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実 参照